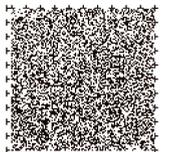


大田区における男女共同参画の歩み



©大田区



「エセナおおた」と男女共同参画の歴史

皆さんは、男女平等推進センター「エセナおおた」に行ったことはありませんか。「エセナおおた」は、令和6年12月に大森北四丁目複合施設「スマイル大森」内へ移転し、リニューアルオープンしました。今回は、「エセナおおた」とともに、大田区の男女共同参画の歴史を

振り返ってみましょう。

さかのぼること約80年、戦後、日本国憲法で男女平等が明記され、昭和21年に初めて女性による投票が行われました。昭和45年頃になると世界中で女性の地位向上を目指す動きが広がり、大田区においても、昭和52年に「婦人会館」が開館しました。これが「エセナおおた」の前身です。昭和56年、国際的に女性差別

撤廃条約が発効となった

頃、大田区では、婦人問題解決のためのプロジェクトチームが編成され、昭和59年に「婦人問題解決のための大田区行動計画（現在の「大田区男女共同参画推進プランの前身）」が策定されました。昭和60年に男女雇用機会均等法が成立し、同年、大田区では、「色あざやかに生きる女性のための情報誌『パステル』（本誌）」が

創刊されました。

時代の流れとともに、「婦人会館」の名称は、平成4年に「おおた女性センター」へ、さらに平成12年に「男女平等推進センター」「エセナおおた」へと変わりました。「エセナおおた」という愛称とシンボルマークは、一般公募によって決定しました。「エセナ」は、スペイン語で「ステージ、場、場面」という意味があり、「エセナおお



(右)昭和60年発行
パステル創刊号

(左)昭和61年発行
パステル2号

